

社友会だより

第 41 号

発行 センツウ社友会
住所 神奈川県横浜市港南区芹が谷 4-27-19
〒233-0006 大和田輝彦 内
編集者 大場省平

* センツウ社友会 第 27 回定期総会開催 *

平成 26 年 4 月 12 日（土）12：00 から東京都港区のシーサイドホテルに於いて、第 27 回定期総会が開催された。

司会の濱田理事が第 27 回センツウ社友会定期総会を開催する旨宣言し、開催した。

始めに、25 年度中にご逝去された、高雄久男様、太田直熊様のご冥福をお祈りし、黙祷を捧げた。

早速、会則 12 条に基づき、議長の選出に入り、濱田理事が選出された。

議事に先立ち、法安会長から次のとおり挨拶があった。

「法安会長の挨拶」

本年も出席者が少なく淋しい気持ちですが、ご出席の皆様元気な顔を拝見し、嬉しく存じます。



社友会のこの一年の包括的な活動状況ですが、特段に申し上げることもありません。会報でお伝えしてきている通り、概ね順調に、すこし右肩左

がりに推移してきたと考えております。

強いて言うならば、会員増強、レク活動問題や会員の参加方策等の問題を孕みながらも、本部・支部間の連絡強化が図られたことによる全国化が、概ね達成できたことです。絆が更に強固となりました。

新年の挨拶と重複しますので、更たためて申し上げますが、本年度も、会員の皆様と知恵を出し合っ、楽しい社友会にして行きたいと存じます。ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

最後に、皆様のご健勝をお祈り致します。

早速、議事に入った。

○議事

第 1 号議案 平成 25 年度活動報告及び会計報告承認の件
大和田事務局長から「平成 25 年度活動報告及び会計報告」について説明し、長谷川監事が会計監査報告を行い、議長は議場に諮った結果、満場一致で承認された。

第 2 号議案 平成 26 年度活動計画案及び予算案承認の件
大和田事務局長から「平成 26 年度活動計画案及び予算案」について説明し、議長は議場に諮った結果、満場一致で承認された。

以上で、議案の審議は全て終了した。

最後に役員を代表し法安会長から、議案審議の結果を踏まえ、これから一年間努力して会の運営に当たる旨挨拶があった。



* 総会後の懇親会 *

総会終了後、平野理事の司会により懇親会が開催され、始めに、朝原さんに乾杯の音頭をお願いした。

朝原さんは、「ここに居ります皆様方の益々のご健勝を祈念いたしまして乾杯したい。杯を高らかに挙げて乾杯しましょう。ご唱和を願います。」と力強く述べられ音頭をとられた。暫らく懇談の後、司会者から中部支部から本田さんが見えになっているので、近況等をお願いしたいとマイクを向けた。

本田さんは、「中部支部の本田です。昨年の 12 月に 77 歳喜寿を迎えました。高齢者は何処か悪いのが正常でございます。私も 1 週間に 1 回位の割で、眼科、耳鼻科、歯科、内科通院をしております。体は高齢化しておりますが、心は円熟した杏の様に、これからも 88 歳の米寿に向けてゆっくり歩いて行きたいと思っております。」と挨拶された。



次に、米寿を迎えられた、佐々木幸雄さんに米寿の秘訣等をお教えいただきたいとの問いに対し、「私が、今日の資料に 88 歳と書いてありますが、昭和 2 年生まれで誕生日が来ませんのでまだ数えて 88 歳です。

お蔭様で昔は郵政省の電波監理局に居りまして、船舶通信に入社させて頂きました。今日もこうやってここに来ております。ゴルフは 50 年位やっておりますがまだ、元気です。船舶通信でこの様に思って頂



き有難うございます。」と応えられた。

続いて、広島から参加された原田さんに、近況等を願いました。

原田さんは、「宴たけなわですが、近況等を報告して挨拶に代えさせていただきます。



中国の方では、「同窓の集い」の立ち上げが遅れておりますが、今回ようやく立ち上がることが出来まして、4月26日に第1回を執り行うことに成りました。

但し、メンバーが九州とパッシングする方も居ります。

私も、病院と仲良くしていますが、また、来年もこの会に参加させて頂ければと思っております。

宜しく願い致します。」と短く挨拶された。

歓談が続く中、司会者から、「鏡さんが来られているので、近況を是非」と要請。

「皆さん今日は、私は総会に出席するのは2回目です。

今日来てみて、何十年振りでお会いした方が居りました。それは昔、本場でベースアップ等の交渉をした方で、本当に懐かし、嬉しく思いました。



近況とのお話ですが、7月にドコモグループの中のドコモエンジニアリング、ドコモモバイル、ドコモサービス、ドコモビジネスネットの4社が合併します。そうすると私も旧センツウが所属していた同じ会社になります。先週、会社、組合に正式に通達されました。

「センツウ同窓の集い」ですが、5回開催されており今日お見えの方も、参加されておりますが、12月1日のセンツウ創立記念日を中心に開催しておりますので、そちらの方にも是非参加頂きますようお願い致します。有難うございました。」

歓談が続き、宴も終盤に差し掛かった頃、司会者から山根さんに近況等、お願い。

「山根でございます。だいぶ、年を取って今日の参加者の中でも一番年を取っているのではと思います。



年を取ると昔の話がしたくなるようで、これから話すのも昔の話ですが。

センツウが設立されたのが、昭和27年で、今年は昭和89年ですので、創立62年に成ります。

センツウはその当時、日本で移動通信の公衆通信を行っていた唯一の会社でしたが、センツウが大きくなる以上に移動無線がどんどん発展し、今や世界人口に匹敵する数に成長した訳ですが、その移動公衆無線を始めた最初の会社が船舶通信だと言っても過言ではないと思います。そう言った意味で、我々船舶通信は胸

を張ってもいいのではないのでしょうか。

私は、電電公社時代に移動無線を担当しておりました、苦勞した話をしてみますと、昭和38年頃、電電公社でも携帯電話をやるという話があり、携帯電話の開発に着手したのですが、船舶電話は、交換手を通して接続する手動方式でした。ところが、私が始めた頃は、手動より自動が良いのではないかとの意見を持った人が多く出て来て、どちらで行うかだいぶ悩んで色々と皆の話を聞いてみました。電話を掛けるのに自動車から片手で何番に繋げと言ったほうが良い。一方、自動ですと車を止めてダイヤルするのでは大変だ。あくまでサービスの面では手動の方が良いのではとの意見があった。また、当時は電話の自動化が進み交換手があまりまして、配置転換に苦慮していたので、その交換手を自動車電話の交換手にしよう。よって、手動で行う話が強くきかれた。自動方式は誰も行っていないし、アメリカでも行っていなかった。

そこで、電電公社でも色々と検討した結果、将来利用者が増えてきた場合、交換手が不足してくるからと、自動で実施することに成り、最後の決断は、米沢総裁まで話行なって自動に決定した。

その他、端末機器の取扱いにレンタルと自営があり、船舶電話は、お客様に買っていただくことが不可能のため、電電公社では、船舶通信会社を創ってサービスを提供した。

結局、自動車電話、ポケットベルも自営を止めてレンタルで行ったがその後、自動車電話、ポケットベルが携帯電話に移ったこと、また、お客様から端末機器の色が良くないので他社製に代えて欲しいとの事でレンタルバックが多くなり、その保管場所の問題等もあって、レンタルを止めて自営となった。

自営になると、メーカー自身で機器の開発が行われ、爆発的に販売が進み、今日の様な携帯電話の数が増えることが出来たと思います。」

会場が静まり返り、耳を傾け聴きほれていた。

中締め音頭は、前社友会会長の宮崎さんをお願いした。

「本日は、本当に古い人とお会いできて、また、名古屋、広島からもお見えに成り懐かしい顔を拝見できてこんなに嬉しいことはございません。私も来年86歳となりますが、米寿まで行けるかと心配しています。



各テーブルを回り、皆さんとお会いしましたが、名前が思い出せなくて困りました。是非、名札を付けるようお願いいたします。

今後、この会の益々の発展と、皆さんの益々のご健康を祈念いたしまして、「万歳三唱」をしたいと思っております。」「万歳・万歳・万歳」

懇親会も無事お開きとなった。

船舶通信センタービルが閉鎖 閉所式に法安会長出席

ドコモモバイル(株)では、「ワイドスターサービス」の終了に伴い、平成26年3月末日をもって、船舶通信センタービルを閉鎖したが、直前の3月7日に同館において、衛星カスタマセンターの閉所式を挙行了。

同式典には、ドコモ・モバイルの小森社長をはじめ、ドコモの前田衛星ビジネス担当部長、センツウ社友会の法安会長等関係者多数が出席し、37年の長きにわたり、船舶電話事業発展の一翼を担ってきた当センタービルの役割を称えながら、式典、懇親等の諸行事を滞りなく終えた。

式典への主な出席者は、次の通り。

ドコモ・モバイル

小森社長(挨拶)、佐野総務部長、三木取締役、田中衛星サービス事業本部長(挨拶)、山本衛星サービス部長、小林衛星カスタマセンター所長(経過説明、司会) 衛星カスタマセンター管理者・社員

ドコモ

前田衛星ビジネス事業部 担当部長

センツウ社友会

法安会長(来賓挨拶)



(出席者の一部)

船舶通信センタービルの内覧・懇親会

ドコモ・モバイル(株)衛星通信事業本部では、ワイドスターサービスの終了に伴い、平成26年3月31日



をもって船舶通信センタービル(川崎)における関連業務を終了し、同ビルは閉鎖することとなり、同社から閉鎖前に最後の機会として建物設備を見て頂くため、会報日を設けたので、センツウ社友会の方々に、是非足を運んで頂き

たい旨の申し出がありました。

2月7日の役員会にて、センツウ社友会として積極

的にこの申し出に協力することを決定し、社友会主催として、会員の皆様には是非ご出席いただくようお願いさせていただきますこととしました。

開放は当日午後3時から5時まででしたが、2時過ぎにお見えになった会員も多く、センター内を見て回っていました。センターはあと20日余りで無人になってしまいますので、機材や机・棚等は殆ど無くなってしまい、各階とも間仕切があるだけで、「ここには何を置いていたのだったかな」と以前を思い出す手がかりを探すのに大変なようでした。

それでも、お見えになった方はセンター勤務の経験がある方が多く、物が無くなったセンターのあちこちで暫らくぶりの挨拶を交わし、思い出を語り合っていました。

各階を見て回ってしまい、懇親会までの時間があつたため、会社では、懇親会を1時間程繰り上げて始めて下さいました。

懇親会は、センターを実質的に管理している渡部俊幸氏の開会の言葉、田中本部長の挨拶で開会となりました。

法安会長の例の型破りの挨拶もあり、会は懐かしい方々が思い出話に盛り上がり、会員からはセンターでの出来事の話がでたり、特に秋久幸雄氏からは、何故川崎に船舶通信センターを建設することとなったかと言う、あまり知られていない事をお話頂いたことが印象的でした。

{レポーター大和田輝彦さん}

ドコモ・モバイル 関西衛星サービスセンターを訪ねて

間もなく第2世代衛星船舶電話への移行が完了する機会に、「関西衛星サービスセンター」を訪れました。

昭和39年の地上波を利用する内航船舶電話サービス開始から33年が経過した。平成8年にサービスエリアを沿岸から200海里に拡大するなど、機能向上を目指して衛星を利用するサービスが開始されました。その第1世代の衛星船舶電話も稼働十数年が経過し、設備機材が老齢化したことから第2世代衛星船舶電話移動側の端末機器(ワイドスターII)の取替工事が、平成22年に開始されました。

地上波を利用するサービス時代は、全国の要所に直営事業所を配置して業務が行われていましたが、現在は北海道・東北・東海・関西・中国・四国・九州及び衛星サービス部の事業拠点(SSC:衛星サービスセンター)が営業活動と工事(取付・休止・取外し等)を担当、また故障等は全国一元的にコールセンター(首都圏地区)が受付対応処理を担当、そして工事用及び故障対応機材等の全国発送と回収を担当する大阪衛星機材センターの3部門が連携して業務を行い、全国各地に構えた約180の協力店が工事・故障修理作業を行っています。従って、各SSCは、お客様との契約・完了手続き、工事要領図・資料の作成、工事材料を確定して工事協力店と工事日程等の調整が主な業務となっています。また、各SSC担当区域ごとに行っていた協力店への工事発注等の業務を、衛星サービス部に集約する新たなルールも進められている模様です。



訪れた日は、移行計画工程の最終月(3月)、これまで決め兼ねていたお客様からの申込みが集中して、営業・サービス担当とも外回りの人も多く、会話出来る時間も少なく残念でした。10年に一度の大イベントが終わります。「事の終わりは次の事の始まり」衛星を取巻く環境は厳しい、しかしワイドスターⅡが新たな世界を切開くことを願いたい。なお、新方式(ワイドスターⅡ)機器、設置状況及びサービスセンターの皆さんを紹介します。



{レポーター富田 昌}

* センツウ社友会 役員会開催 *

- 日 時 平成26年2月7日(金) 14:00~
- 場 所 島嶼会館
- 出席者 10名(首都圏在住役員)
法安、菅原、崎山、松原、濱田、平野、松本、長谷川、大和田、大場の各役員

1. 議事

- (1) 25年度活動計画の実施状況
大和田事務局長から活動計画に沿った実施状況である旨の報告があった。
また、センツウ同窓の集いは、全国で実施され、136名の参加があった旨の報告があった。
なお、菅原副会長から、「七福神めぐり」を実施した旨、報告された。
- (2) 第27回定期総会の開催と案内について
大和田事務局長から、第27回総会の開催について資料により提案があり、開催日時、場所等、了承された。
- (3) 25年度仮決算について
大和田事務局長から、資料により1月末の状況報告があり、支部の活動支援の強化及び25年周年事業費により、総体的に繰越金が減少したとの報告があった。

(4) 報告事項

- ① 「センツウ同窓の集い」の決算について
松原理事から、資料に基づき決算報告があった。
 - ② 会費の入金状況等
大和田事務局長から、資料に基づき会費の未納状況、新規入会者、退会者の報告があった。
 - ③ 阪神支部 同窓の集い記録集の作成
阪神支部の富田理事から、社友会25周年と同窓の集い5回目を記念して記録集を作成し、支部会員全員に配布した旨の報告があった。
 - ④ その他
・新規の会員には自己紹介等を「社友会だより」に寄稿して頂くこととし、事務局から新会員へ依頼する。
・「社友会だより」の記事は各支部にもお願いし、記事の掲載を依頼する。
- (5) 船舶通信センターの閉館に伴うビルの開放について
ドコモ・モバイルの渡部担当部長から、ワイドスターサービスの終了に伴い、来る3月31日をもって船舶通信センタービルにおける関連業務を終了し、同ビルを閉鎖することとなった。
については、閉館前にセンツウOBの方々に建物設備を見て頂く開放日(3月7日)を設けたので、センツウ社友会の協力をお願いしたいとの申し出により、社友会として協力することとし、会員に周知することとした。

* センツウ社友会 役員会開催 *

- 日 時 平成26年3月14日(金) 14:00~
- 場 所 島嶼会館(会議室)
東京都港区海岸1-4-15
- 出席者 8名(首都圏在住役員)
法安、菅原、崎山、濱田、平野、長谷川、大和田、大場の各役員

1. 議事

- (1) 第27回定期総会資料の検討について
大和田事務局長から、第27回定期総会の議案書について、資料により説明があり、一部文言を修正し、案のとおり了承された。
- (2) 「社友会だより」編集者の交代について
大場副会長から、諸般の事情により次号(第41号)をもって交代願いたい旨の申し出があり、後任を濱田理事をお願いしたところ、濱田理事から引き受ける旨の発言があり、編集長に決定した。
- (3) 報告事項
 - ① 船舶通信センターの閉館に伴う内覧会の出欠状況
大和田事務局長から、資料に基づき「内覧会」の出欠状況について報告があった。
 - ② 平成26年度の活動計画について
第27回総会後の活動計画では、役員会の開催時期と会報の発行をジュール化し、計画の具体的な実施内容・方法・時期等は担当役員の意向も踏まえて検討する。

お悔やみ

池田洗一様 平成26年4月27日 享年72歳
謹んでご冥福をお祈りいたします。

「編集担当よりお知らせ」

*次号から、編集担当が濱田理事に交代いたします。